

【児童への話】

昨日から2月に入りました。2月4日水曜日は節季という「立春」で、その前日2月3日は、「鬼は外 福は内」の「節分」の日です。日本には季節が春夏秋冬の4つあるので、実は節分は年に4回あるのですが、明日2月3日の節分は、冬から春へと季節を分ける、1年のスタートとしての特別な節分という扱いになっています。皆さんは、明後日の水曜日からはもう春で、改めて新しい年が始まったんだなと思ってみてください。何か新しいことにチャレンジしてみるのもいいですね。「一日ひとつ」成長していきましょう。

さて今日は、「節分にまつわること」について、ひとつお話しします。

皆さんは節分の日には、悪い鬼を追い出すために豆まきをしますね。でも、節分でも「豆まきをしなくても大丈夫、豆まきをする必要がない」と言われている苗字の人がいるのを知っていますか？落五小には、1～6年の全学年に必ずひとりはいる苗字です。さあ、誰さんだと思いますか…？

答えは、「わたなべさん」です。

平安時代、今から900年ほど前の話ですが、渡辺綱（わたなべのつな）というとても強いお侍さんが、酒吞童子という鬼のボスを倒して平和をもたらした、という話があります。この人が、今のわたなべさんのご先祖さまです。渡辺綱には鬼も恐れて近付かない、ということで、今でもわたなべさんは、節分でも豆まきをしなくても大丈夫、する必要がないと言われているんです。もちろん、豆まきはわたなべさんもしていいことですので、節分の行事を皆さんで楽しんでみてくださいね。

今日は2月の「節分にまつわること」についてお話ししました。

【本講話について】

いよいよ2月に入り、年度の終わりに向けて教育活動がより活発になってきました。年度当初に教員が設定した「子どものゴールイメージ」と「学級集団のゴールイメージ」が達成できそうか（できているか）、この時期に改めて見つめ直し、よりよい姿で次学年へと進級できるように努めていきます。

2月4日の立春を迎えると、暦のうえではもう春になります。教職員一同、新たな気持ちで残り2か月の教育活動を充実させていくとともに、令和8年度の準備を遺漏なく行っていきます。今後もしようとして協力ください。